

＜学校現場の問題＞ 学校経営における生徒指導

著者	富田 勇吉
雑誌名	学校経営研究
巻	12
ページ	72-75
発行年	1987-04-01
その他のタイトル	<Problems of the School Today A Study on the Significance and Recent Condition of In-service> Counselors on School Management
URL	http://hdl.handle.net/2241/00124520

学校経営における生徒指導

狭山市立入間川東小学校 富 田 勇 吉

1. はじめに

『学校経営研究』第11巻の中に「現代のこどもと教育」を書き、その末尾に「幼稚園或いは小学校の一現場責任者として、どこにどのような対策をとり、どんな働きかけをしているのかということについては、殆んど言及することができなかった。この点他日を期したいと思っている」と書いた。

そこで、紙数の制約もあり具体的に書くことはできないが、見出しのような標題の下に、本校で現在行っていることの一端を記述してみることにした。

本校は昭和48年4月に開校したが、開校時児童数は590名、15学級であった。それが今では児童数1367名、33学級、職員数も開校時の2倍の44名となっている。

それというのも、学校周辺地域の開発が急で、商業地の拡大と住宅化が進み、全国各地からの転入児が多いためである。

ところで、ただでさえ「子どもは子どもでもその中身が変ってきている」といえる時に、全国各地からの転入児が多いのだから、ただ単に各教科等を教えるというだけでは、その健全な発達を期することがむずかしいのである。こういう中で、子ども達に基本的生活習慣をつけたいという思いが、職員に共通する願いになっていったといえる。

2. 児童の理解と協働の体制

何も生徒指導に限らないが、私達には在籍する子ども達の実態を的確に把握しなければならないという仕事がある。子どもは時代を映す鏡だといわれるが、現代の子ども達は現代っ子特有の長所を持つ反面、昔では考えられなかったような問題点を合わせ持っているといえることができる。

教育の現場にあって、これら未成熟な子ども達を預り、日々の営みを続ける者としては、現代の子ども達をよりよく理解し、教職員の共通理解のもとに、子ども達の長所は伸ばし、短所は矯めるための努力を続けなければならないのである。

そう考え子ども達をみると、中には過保護や放任等によって、望ましからざる生活のツケを背負い、そのため学校生活に仲々適応することができず、年令相応の耐性に欠ける者や、情緒不安定、或いは怠学的傾向性を示す等、望ましい集団生活、人間らしい生き方の本校にもいわゆる基本的生

活習慣が不十分だと思われる子どもが少なからずいるといわなければならない。

一方校長には、価値観の異なる教職員をまとめ結束させ、目標達成に向けて大きく動かさなければならないという職務がある。そしてそのために、教職員にその年度の共通の目標と各自の役割分担を明確にしてやる必要があるのである。

いずれにしても、今日の学校には生徒指導一つとっても、教職員がバラバラに対応していたのでは、何一つ解決し得ないような問題が山積しているといえる。

そこで校長は、教職員に進むべき方向を示し、彼等にやる気を起させ、全教職員の協働体制を確立しなければならないのである。

こう考え、私は本年度当初次のような3つの努力目標を示した。

- ・ きれいな学校・美しい学校づくりに努めよう。
- ・ 基本的生活習慣の育成に努めよう。
- ・ 健康で自身をもった子どもの育成に努めよう。

そうして、この努力目標をうけた指導の重点を定めさせたのである。いま「基本的生活習慣の育成に努めよう」という努力目標をうけた指導の重点をみると次のようになっている。

- ・ 人間らしい生き方を身につけさせるように努める。
- ・ 一人一人を大切にし個性の伸長を図る。
- ・ 計画的・積極的な生徒指導に努める。
- ・ 児童理解をもとに基本的な生活習慣の徹底を図る。

以上のような諸点をふまえ、全職員の協議にもとづいて、児童一人ひとりに自己実現の場を保障し、あわせて将来にわたって人間として生きていく力を培ってやりたいと思っているのである。

本年度本校では、「一人ひとりを大切に生徒指導の推進」という研究主題をもって、研究・実践に当たっているが、これには2つの視点がある。一つは自己実現的側面であり、もう一つは手段的側面である。そうしてこれらを推進するために、よりよき児童理解が前提となると考えているのである。

このような考え方に立って、第一に児童一人ひとりをよりよく理解するように努めたいと考えている。このため、今年は研究組織の中に新たに「児童研究部」を設け、教職員の児童理解の前進を図ると共に、校内教育相談室を開設し、児童の持つ悩みや困難の解決を助け、集団生活によりよく適応させることや、人格形成への援助の強化を図っている。

第二に、本校の努力目標である「きれいな学校・美しい環境づくりに努める」中で、学校生活に喜びと満足感を味わわせるようにしたいと思っている。幸いに本校には1300㎡の農園があり、ここで全学級勤労体験学習ができるしくみになっている。農園での作業、野菜づくり、一人一鉢栽培、菊作り等、児童・職員共々働く喜びを通して、発芽・開花や収穫に満足感を味わっている。土に親しみ自ら働き学ぶことを通して、子ども達一人ひとりに自己実現の場を保障してやりたいというわけである。

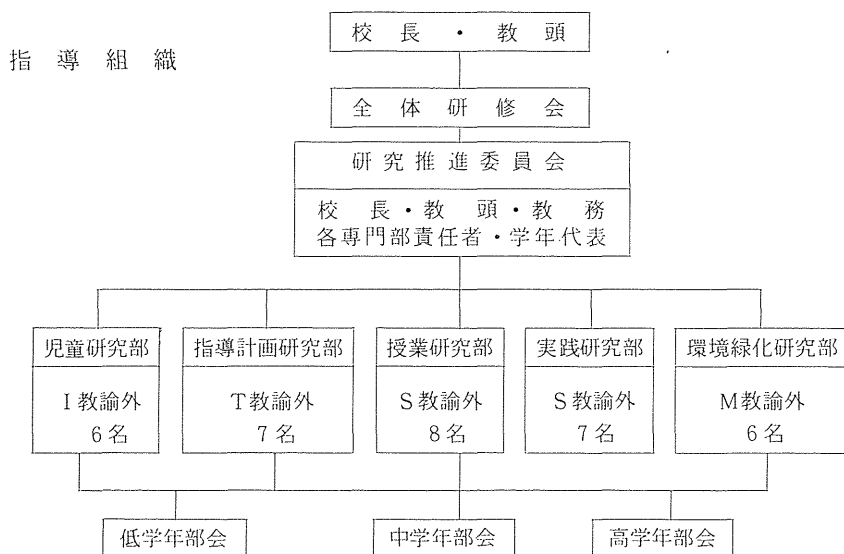
各教科・道徳・特活等学校生活のあらゆる場で、豊かな人間性の育成に努めていることはいうまでもないことである。

第三に子ども達が将来にわたって円滑な生活を営むために、必要なしつけをしたいと思っている。読者の中には、それは家庭の仕事ではないかという人もあろうが、子ども達が将来社会人として役立つ人間になるためには、小学校において基本的生活習慣を身につけさせなければならないという児童の実態があるのである。このために、全教職員が共通理解に基づく共同行動をとりながら、一貫性のある指導をめざしているのである。あいさつ、整理整頓、他人に迷惑をかけない、生き物を大事にする、学校のきまりを守る等、基本的なしつけを一人ひとりの子どもの身につけさせたいというのである。

4. 全体計画と指導組織

既述の通り、生徒指導にはとりわけ、全教職員の共通理解に基づく共同行動と、一貫性のある指導が必要である。そのために具体的な全体計画がなければならない。いま本校では次のような生徒指導全体計画を持っている。

このような全体計画に基づいた、本年度の指導組織は次のようになっている。



- 児童研究部……………教育相談体制の確立，相談室の定期的開設。
- 指導計画研究部……生徒指導全体計画の作成，学級指導の年間計画，細案の作成。
- 授業研究部……………学習指導案の検討作成，授業実践。
- 実践研究部……………生活月目標の設定と追跡調査，学校のきまりの教師用手引書の作成。
集会活動の中での生徒指導についての研究。
- 環境緑化研究部……落着いた環境作り提示物の工夫，一人一鉢の植物を育てる。農園の作物計画作成。

＊研究部の設定について

- 毎月第2，第4月曜日を研修日として，全体研修会，授業研究会，専門部会等を行う。
- 水曜日の学年研修の日，研究部会の日にも専門部会等を行う。
- 学年，ブロック学年の研修会は，主に金曜日の学年会時にあてる。

5. おわりに

「荒れる学校」においては教師集団にまとまりがなく、児童・生徒に対しても保護者に対しても共通理解や共同行動に欠けているといわれる。私達は生徒指導を対症療法的にではなく、児童の健康な人格の発達をめざしてより積極的にとらえ、「積極的な生徒指導」をめざし、全教職員が協力して取り組んでいるが、実際にはいろいろな問題があり、仲々きれいごとばかりではすまない局面もある。ただ市内有数の大規模校であるにも拘らず、児童がほぼ安定的な学校生活を送っていることは、全職員が一致して取り組んでいく賜であると思っている。

以上、標題からは程遠い記述となったし、教室等の実際場面に踏み込んで書けなかった等、教育現場からの報告としては不十分なものではあるが、多少なりとも現場の雰囲気をご理解頂く一助ともなればと思い、編集者の需めに応じ寄稿したような次第である。